

沖縄の「日常」とその複雑さについて —基地と平和をめぐる交錯する思いと動き—

元山 仁士郎（もとやま・じんしろう）

1991年生まれ。沖縄県宜野湾市出身。国際基督教大学教養学部4年(休学中)。立憲主義と日米地位協定について学ぶ。SEALDs(自由と民主主義のための学生緊急行動)やSEALDs RYUKYUの立ち上げ/中心メンバー、市民連合メンバー。現在はND(新外交イニシアティブ)で事務局スタッフとして働く。

対談本に『沖縄と差別』佐藤優著(『金曜日』、2016年6月)、『僕がイスラム戦士になってシリアで戦ったわけ』鶴沢佳史著(『金曜日』、2016年1月)、座談会録：『あきらめることをあきらめた 71年目のデモクラシー』小森陽一、黒澤いつき、元山仁士郎、西郷南海子(『かもがわ出版』、2016年4月)。出演作品『不思議なクニの憲法』(松井久子監督、2016年)、『わたしの自由について』(西原孝至監督、2016年)。

1. 私について —沖縄と東京—

- 沖縄での体験
 - 祖父母・戦争体験者との触れ合い、話：銃痕と表情
 - 米軍基地のある日常：嫌悪感と憧れ
 - 反基地運動へのまなざし：声をあげてもなくなるもの
- 上京／「3.11」
 - 日本社会への違和感：原発事故をめぐる対応や成立過程、維持のされ方
 - 基地がない環境との出会い：静かな空、米兵の姿がないこと
 - 盛んになった社会運動との出会い：脱原発運動の隆盛

2. SEALDsとSEALDs RYUKYU

- SEALDs RYUKYU(Students Emergency Action for Liberal Democracy
：自由と民主主義のための学生緊急行動)
 - 15年5月3日、立ち上げ
 - 2015年夏の動きと成果/課題：学者や上世代への問い
 - 沖縄・辺野古基地建設強行への抗議
 - 選挙に向けた取り組み
- SEALDs RYUKYU
 - 15年8月15日、立ち上げ
 - 安保法制と辺野古
 - 宜野湾市長選挙での取り組み
 - 基地の話 ワークショップ
- 複雑な事情
 - 同世代からの反応：冷笑、ギャップ
 - 日常を否定することの難しさ：人間関係、仕事
 - 基地反反対運動：日常を否定することの難しさ、平和教育や長年の反戦・平和運動の反動？

3. 目指すもの —政治を語ること、声を届けること—

- ゆんたく／対話の場作り：ワークショップ
- 投票率アップ、争点の明確化：パンフレット
- 参議院選挙に向けた野党共闘：全国行脚
- 外交に市民の、沖縄の声を：ND（新外交イニシアティブ）